



## 2025年6月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2024年11月14日

上場会社名 株式会社平山ホールディングス  
コード番号 7781 URL <https://www.hirayamastaff.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 平山 善一

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 グループ戦略本部長 (氏名) 塚原 進午

TEL 03-5769-4680

配当支払開始予定日

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年6月期第1四半期の連結業績(2024年7月1日～2024年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年6月期第1四半期	8,844	3.6	301	38.3	326	36.1	211	34.5
2024年6月期第1四半期	8,538	10.6	218	23.2	240	23.2	157	21.3

(注) 包括利益 2025年6月期第1四半期 215百万円 (37.3%) 2024年6月期第1四半期 156百万円 (20.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年6月期第1四半期	27.92	27.50
2024年6月期第1四半期	21.32	20.57

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年6月期第1四半期	11,977	4,474	37.3	585.88
2024年6月期	12,294	4,466	36.3	591.31

(参考) 自己資本 2025年6月期第1四半期 4,470百万円 2024年6月期 4,462百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年6月期		12.00		30.00	42.00
2025年6月期					
2025年6月期(予想)		16.00		34.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2025年6月期の連結業績予想(2024年7月1日～2025年6月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)									
通期	38,000	7.7	1,347	20.4	1,336	14.5	850	12.3	112.62

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - 以外の会計方針の変更 : 無
  - 会計上の見積りの変更 : 無
  - 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年6月期1Q	8,122,800 株	2024年6月期	8,040,400 株
期末自己株式数	2025年6月期1Q	492,773 株	2024年6月期	492,773 株
期中平均株式数(四半期累計)	2025年6月期1Q	7,588,184 株	2024年6月期1Q	7,389,988 株

添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(セグメント情報等の注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	10
(四半期連結貸借対照表に関する注記) .....	11

## 1. 経営成績等の概況

### （1）当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間においては、2024年10月1日発表の全国企業短期経済観測調査（短観）に見られるとおり、大企業製造業の景況感を示す業況判断指数（DI）は前回の6月調査から横ばいのプラス13でした。IT（情報技術）市況の回復を受け半導体などが伸び、電気機械が10ポイント改善しプラス11となりました。自動車は5ポイント悪化のプラス7、先行きは2ポイント改善のプラス9でした。認証不正問題の影響が緩和しつつあるものの、8月の台風10号など自然災害による工場停止の影響がありました。大企業非製造業のDIは前回調査から1ポイント改善してプラス34で、2四半期ぶりの改善となりました。猛暑で夏物衣料など関連商品の需要が伸び、小売りは9ポイント改善のプラス28でした。宿泊・飲食サービスは3ポイント改善しプラス52でした。好調なインバウンド（訪日外国人）需要が押し上げ要因となりました。

一方、2024年9月の完全失業率は2.4%で、前月から0.1ポイント下がりました。9月の有効求人倍率（季節調整値）は1.24倍で、前月と比べて0.01ポイント上昇しました。人手不足の状況は変わらないものの、物価高によるコスト上昇で求人を探る動きが一部にありました。

このような環境下において、平山グループは、タイでの生産が停滞する一方、国内の生産回復需要を取り込み、前年同期比で増収増益を確保しました。インソーシング・派遣事業が業績を牽引し、新規・既存顧客からの受注が増加するとともに、前期に連結子会社化した株式会社平山GL（旧ブリヂストングリーンランドスケープ株式会社。以下「平山GL社」という。）において、前期に要したグループ化に伴う諸費用がなくなったこと、平山グループが得意とする現場改善により生産効率を改善したこと等が、増収増益に寄与しました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高8,844,278千円（前年同期比3.6%増）、営業利益301,580千円（前年同期比38.3%増）、経常利益は助成金収入660千円、為替差益24,269千円等を計上したことから326,826千円（前年同期比36.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は法人税等114,395千円等を計上した結果、211,836千円（前年同期比34.5%増）となりました。

セグメント別の業績の概況は、次のとおりです。

#### ① インソーシング・派遣事業

インソーシング・派遣事業につきましては、電子デバイス・半導体製造関連、医療機器関連、自動車メーカー3社からの受注・受託が堅調に進み、増収となりました。物流関連、旅客業関連、リテール関連等においては、インバウンドの活況により引き続き旺盛な需要があり、既存取引先からの追加発注のみならず新規受注も好調でした。なお、前述したように、前期に連結子会社化した平山GL社も増収に寄与しております。

利益面では、8月の台風災害の影響と、7月及び9月の稼働日数が例年よりも2日少なかったことにより、利益が押し下げられたものの、医療機器関連及び平山GL社の寄与により増益となりました。その一方で、今後の成長を見据えて、顧客ニーズが強い高単価受注案件への人員配置及びハイエンド技能人材教育の強化を行うため、募集費等を戦略的に使用するとともに新たな拠点や研修センターの設置、採用担当者及び教育人材の拡充に伴う関連費用が増加しました。

採用面では、2024年新卒採用者が定着し生産の安定に寄与する一方、中途採用では、サービス産業の復調等業況の改善に伴い採用環境が前期に増して厳しく、費用増となりました。これに対し、平山グループは、コストパフォーマンスの良い地方テレビCM等のメディア活用、SNSの活用、ネットワーク採用等を前期から継続的に強化して企業イメージの向上を図るとともに、採用ルートの多様化等により採用強化を行っております。現状の物価上昇や給与引き上げ等による新卒・中途採用費用及び労務費ともに上昇傾向にあるものの、顧客企業に理解を求め、収益改善に努めております。

この結果、売上高は7,157,813千円（前年同期比4.5%増）、セグメント利益は455,501千円（前年同期比29.6%増）となりました。

#### ② 技術者派遣事業

技術者派遣事業におきましては、主要顧客である大手製造業の一部において、中長期的な技術開発投資の回復が見られました。これに伴い、車載関連及び精密機器等の制御組み込みソフトウェア、半導体関連、並びに生産設備関連の技術者を中心に、平山グループの受注は回復基調にあります。特に、製造業界における技術者不足が進行する中、若手エンジニアを高単価案件へと配置することで、収益の向上に寄与しております。

また、AIやIoT、DXの推進などIT分野における需要に対応するため、IT系若手エンジニアの積極的な採用を進めております。これに加え、社内研修を活用してエンジニアの市場価値向上を図る施策を推進し、中途採用者の研修生が7月から9月にかけて一時的に増加したものの、在籍数は目標を上回っており、今後の業績向上に寄与する見込みです。

人材採用面においては、引き続き中長期的な成長を見据え、採用活動を強化しております。新卒及び中途採用市場では、メーカーや競合他社の求人意欲が一段と高まっており、技術者確保に向けての競争が激化する状況が

続いております。そのため、平山グループでは、採用部門の人員強化に取り組むとともに、9月にオープンした新リクルーティングサイトを活用したブランディングの構築や、新たな母集団形成ルートの確立により収益改善に努めております。

この結果、売上高は755,397千円（前年同期比4.8%増）、セグメント利益は13,208千円（前年同期比70.0%減）となりました。

### ③ 海外事業

海外事業につきましては、主力のタイにおいて、製造業生産指数(MPI)が、前年同四半期比で、2023年7～9月期は5.2%減、2023年10～12月期は2.9%減、2024年1～3月期は3.6%減、2024年4～6月期は0.2%減となり景気は停滞しております。主要産業である自動車生産では、前年同四半期比で、2024年1～3月は18.4%減、2024年4～6月は16.3%減でした。このような環境の下、タイにおける平山グループの派遣従業員数は、2024年6月時点で2,301名（前年同月比24.5%減）となったものの、ローコストでのオペレーションに継続して努めてきたことから黒字を確保しましたが、さらにコスト削減を図り収益改善に努めております。

この結果、売上高は607,688千円（前年同期比16.5%減）、セグメント利益は9,970千円（前年同期比59.2%減）となりました。

(注) 海外事業につきましては、2024年4月～6月期実績を3ヶ月遅れで当第1四半期連結累計期間に計上しております。

### ④ その他

その他事業につきましては、国内外の現場改善に係るコンサルティングや海外企業及び教育機関からの研修案件が増加しました。また、DX推進のためのシステムの刷新や工場立ち上げ支援案件が増加しました。

利益面では、外国人エンジニア及び技能実習生の配置が進んだことから、外国人雇用管理サポート事業の寄与により増益となりました。また、平和鉄工所についても、中型製品の受注や製造が順調だったこと、大手重電からの小間物の製作依頼が多数入ったこと等もあり収益に貢献しております。

この結果、売上高は323,379千円（前年同期比35.7%増）、セグメント利益は99,243千円（前年同期比122.3%増）となりました。

## (2) 当四半期の財政状態の概況

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ316,804千円減少し、11,977,437千円となりました。

当第1四半期連結会計期間末の流動資産は、その他流動資産が92,964千円増加した一方で、現金及び預金が229,272千円、受取手形及び売掛金が254,315千円、それぞれ減少したこと等により、前連結会計年度末に比べ380,458千円減少し、10,304,059千円となりました。

当第1四半期連結会計期間末の固定資産は、無形固定資産が157千円減少した一方で、有形固定資産が8,882千円、投資その他の資産が54,929千円、それぞれ増加したことにより、前連結会計年度末に比べ63,653千円増加し、1,673,378千円となりました。

当第1四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ324,838千円減少し、7,503,175千円となりました。

当第1四半期連結会計期間末の流動負債は、賞与引当金が226,095千円、未払消費税等が130,459千円、それぞれ増加した一方で、未払金が161,448千円、未払法人税等が29,424千円、それぞれ減少したこと等により、前連結会計年度末に比べ253,600千円減少し、4,747,173千円となりました。

当第1四半期連結会計期間末の固定負債は、退職給付に係る負債が16,731千円増加した一方で、長期借入金が99,550千円減少したこと等により、前連結会計年度末に比べ71,238千円減少し、2,756,001千円となりました。

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、新株予約権の行使による株式の発行等により、資本金が9,558千円、資本剰余金が9,462千円、それぞれ増加した一方で、配当金226,428千円の支払等があったことにより、前連結会計年度末に比べ8,033千円増加し、4,474,262千円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

国際通貨基金(IMF)が2024年10月22日に改定した世界経済見通しで、2024年の日本の経済成長率の見通しを、0.3%（前回7月発表時0.7%）と下方修正したものの、2025年の成長率を1.1%（前回7月発表時1.0%）と上方修正するとともに、世界全体の2025年経済成長率の見通しを3.2%（前回7月発表時3.3%）としております。

このような環境の下、平山グループの今後の見通しにつきましては、タイにおける生産が停滞しているものの、国内生産の回復による受注が堅調なこと、これに対する新卒の配属が順調に進み生産に寄与していることから、確実な進展を見込んでおります。さらには、引き続き積極的な人材採用を進めるとともに、特殊技能工である設備保

全士や溶接技能者等の教育・育成により、ハイエンドスキル現場技能工の増員を進めてまいります。

以上を踏まえ、2025年6月期の連結業績予想は、2024年8月14日発表内容に変更はありません。

※上記の業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,949,094	5,719,821
受取手形及び売掛金	3,896,926	3,642,610
未収還付法人税等	212,981	222,864
その他	636,717	729,682
貸倒引当金	△11,201	△10,919
流動資産合計	10,684,518	10,304,059
固定資産		
有形固定資産	459,812	468,694
無形固定資産	59,994	59,836
投資その他の資産	1,089,917	1,144,847
固定資産合計	1,609,724	1,673,378
資産合計	12,294,242	11,977,437
<b>負債の部</b>		
流動負債		
短期借入金	80,000	80,000
1年内返済予定の長期借入金	398,200	398,200
未払金	2,731,283	2,569,834
未払法人税等	160,924	131,500
賞与引当金	188,845	414,941
未払消費税等	613,120	743,580
その他	828,399	409,117
流動負債合計	5,000,773	4,747,173
固定負債		
長期借入金	1,187,000	1,087,450
退職給付に係る負債	1,247,967	1,264,699
役員退職慰労引当金	311,435	314,795
その他	80,837	89,056
固定負債合計	2,827,240	2,756,001
負債合計	7,828,013	7,503,175
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	558,186	567,744
資本剰余金	477,673	487,135
利益剰余金	3,680,151	3,665,559
自己株式	△250,272	△250,272
株主資本合計	4,465,739	4,470,167
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△2,769	81
その他の包括利益累計額合計	△2,769	81
新株予約権	76	76
非支配株主持分	3,181	3,936
純資産合計	4,466,228	4,474,262
負債純資産合計	12,294,242	11,977,437

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年9月30日)
売上高	8,538,347	8,844,278
売上原価	7,169,709	7,315,364
売上総利益	1,368,637	1,528,913
販売費及び一般管理費	1,150,505	1,227,333
営業利益	218,132	301,580
営業外収益		
為替差益	18,557	24,269
助成金収入	2,301	660
その他	2,920	4,402
営業外収益合計	23,779	29,332
営業外費用		
支払利息	1,216	3,426
その他	615	659
営業外費用合計	1,831	4,085
経常利益	240,079	326,826
特別利益		
負ののれん発生益	13,718	-
特別利益合計	13,718	-
特別損失		
固定資産除却損	399	-
関係会社清算損	2,486	-
特別損失合計	2,886	-
税金等調整前四半期純利益	250,911	326,826
法人税、住民税及び事業税	133,178	161,823
法人税等調整額	△40,180	△47,427
法人税等合計	92,997	114,395
四半期純利益	157,913	212,430
非支配株主に帰属する四半期純利益	389	594
親会社株主に帰属する四半期純利益	157,524	211,836

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年9月30日)
四半期純利益	157,913	212,430
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△1,102	2,865
その他の包括利益合計	△1,102	2,865
四半期包括利益	156,811	215,295
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	156,413	214,687
非支配株主に係る四半期包括利益	398	608

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2023年7月1日至2023年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	インソーシ ング・派遣 事業	技術者派遣 事業	海外事業	計				
売上高								
外部顧客へ の売上高	6,851,126	721,137	727,768	8,300,031	238,315	8,538,347	—	8,538,347
セグメント 間の内部売 上高又は振 替高	—	3,728	1,003	4,732	36,679	41,412	△41,412	—
計	6,851,126	724,866	728,771	8,304,764	274,995	8,579,759	△41,412	8,538,347
セグメント利 益	351,565	43,972	24,426	419,964	44,651	464,615	△246,483	218,132

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、当社グループが行っているコンサルティング事業・教育事業・有料職業紹介事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△246,483千円は、セグメント間取引消去18,727千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△265,211千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2024年7月1日 至 2024年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	インソー シング・派遣 事業	技術者派遣 事業	海外事業	計				
売上高								
外部顧客へ の売上高	7,157,813	755,397	607,688	8,520,899	323,379	8,844,278	—	8,844,278
セグメント 間の内部売 上高又は振 替高	—	1,033	1,126	2,159	43,019	45,178	△45,178	—
計	7,157,813	756,430	608,814	8,523,058	366,398	8,889,457	△45,178	8,844,278
セグメント利 益	455,501	13,208	9,970	478,679	99,243	577,923	△276,342	301,580

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、当社グループが行っているコンサルティング事業・教育事業・有料職業紹介事業等を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額△276,342千円は、セグメント間取引消去19,777千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△296,120千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却費は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年9月30日)
減価償却費	14,211千円	16,742千円
のれんの償却費	2,452	82

(四半期連結貸借対照表に関する注記)

当座貸越契約

当社及び連結子会社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行3行と当座貸越契約を締結しております。この契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2024年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年9月30日)
当座貸越極度額	1,080,000千円	1,080,000千円
借入実行残高	80,000	80,000
差引額	1,000,000千円	1,000,000千円